

JAPAN GOLF ASSOCIATION

JGAGolf Journal

日本のゴルフが、日本のチカラに。
Green Tee Charity



GOLF AS



公益財団法人日本ゴルフ協会

JGA
JAPAN GOLF ASSOCIATION
<http://www.ga.or.jp>

持つハンディキャップから 使うハンディキャップへ

2014年1月1日
世界基準の
ハンディキャップに!

JGAハンディキャップ規定(USGA準拠)導入

JGAでは2014年1月1日から、新たなJGAハンディキャップ規定(USGAハンディキャップシステム準拠、通称スロープシステム)を正式導入する。新システムで何が変わり、どのような利点があるのか。ゴルフのさらなる普及へ大きな効果が期待できる新システムについて解説していく。

スロープシステムが ゴルフ界活性化の切り札になる

ゴルフはハンディキャップ(以下HDCP)を活用し、年齢、性別を超えてさまざまなレベルのプレーヤーが同じフィールドで公平に競い、楽しむことができるという点でほかのスポーツと一線を画しています。いうならば、HDCPはゴルフの本質的価値・魅力の源でもあるのです。

【ハンディキャップの歴史】(概略)

年代	欧米	日本
17世紀後半	HDCPの概念広まり始める	
1900年頃	英国女子連盟が初のCR開発	
1911年	USGAが初めてCR導入(全米アマ優勝者のスコア)	
1920年代~	全米各地区でHDCPシステムの改善策考案	1950年代 JGA HDCP制度導入(USGA制度を参考に開発)
1960~70年代	USGAが障害難易度査定法を考案 現行HDCP制度の基礎完成	1978年 現行JGA制度施行(USGA制度を参考に開発)
1979年	USGAがスロープシステム開発着手	
1987年	USGAがスロープシステム正式施行	
2010年~	現在世界61の国と地域で採用	2010年 スロープ導入決定(USGAとJGAが正式契約締結)

CR=コースレーティング

HDCPの概念が広がったのは17世紀といわれています。古の時代からHDCPはゴルフに欠かせないものだったのです。

1900年頃には英国女子連盟がHDCP算出の基準となるコースレーティングを世界で初めて開発。1911年にはUSGAが全米アマ優勝者のスコアを基準にしたコースレーティングを導入しています。

日本では1924年のJGA設立と同時にナショナルHDCPシステムを導入。目的は日本アマなどへの出場資格の尺度とするためでした。

1950年代にはUSGA制度を参考に開発したJGAHDCP制度を導入。そして1978年には現行のJGAHDCP規定を制定しました。その後も改良を加え、現在の形に発展してきたのです。

しかし、さらに研究を重ねた結果、現行制度では公平性、互換性に問題を生じることが分かってきました。問題点を改善するため、2007年から「より公平で、より使いやすい」という観点から目指すべき将来像を模索。海外のHDCPとの比較検討を重ね、USGAが開発したスロープシステムが最適と判断して導入を決定した次第です。

スロープシステムを導入する目的は、HDCPを使ったゴルフの楽しさをより多くのゴルファーが享受できる環境を整え、JGA最大の使命である「ゴルフの普及」を一層推進していくことです。

現在、我が国は少子高齢化の時代を迎えており、ゴルフ界を取り巻く環境はますます厳しくなることが予想されます。このような時代だからこそ、「ゴルファー人口の維持・拡大」に向けた新たな取り組みが必要。そのために不可欠なのが「より公平で、より使いやすい」HDCPだと考えています。

現行制度でのHDCPは「使う」という機能が



十分ではありませんでした。スロープシステムにおけるHDCPは実際に「使って楽しめる」ことが特徴。HDCPというゴルフ特有の素晴らしいシステムを通じ、ゴルフの本質的価値をより広め、ゴルフのさらなる普及を推し進めることが期待できるのです。

2014年1月1日の正式導入に向け、加盟倶楽部の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

スロープシステムで ハンディキャップがどう変わるのか

新たに導入するスロープシステムは現在、世界61の国と地域で採用されています。この中には開発したアメリカのほか、イングランド(女子)、スコットランド、オーストラリア、韓国などゴルフ先進国といわれる国や地域がすべて含まれています。これだけ多くの国が採用していることから、スロープシステムの公平性、正確性の高さが分かります。スロープシステムはまさに世界基準のシステムなのです。

スロープシステムが現行のJGAHDCP規定と大きく異なるのは「持ち運びができる」という点にあります。

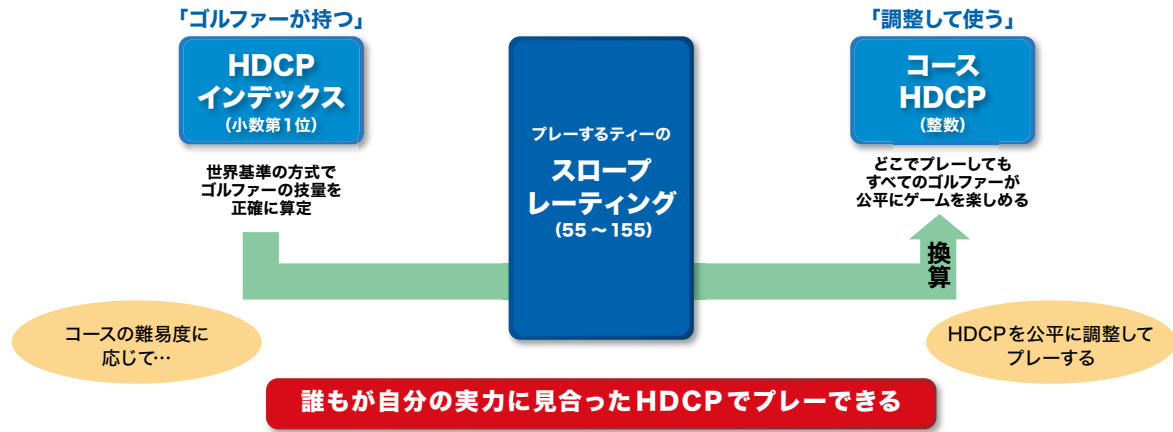
現行制度では倶楽部間でのHDCPの互換性がありませんでした。自分の持つHDCPはどこに行っても変わらないのです。

たとえば、コースレーティング74.0のA倶楽部でHDCP15.0を取得したプレーヤーAがコースレーティング69.0のB倶楽部でプレーする場合もHDCP15.0になるわけです。しかし、現実的にはプレーヤーAが難易度の低いB倶楽部でプレーする場合のHDCPは15.0より少ないと考えるべき。にもかかわらず、現行制度では難易度に応じてHDCPの調整をすることはできませんでした。

また、プレーヤーAとB倶楽部でHDCP15.0を持つプレーヤーBがプレーする場合、この2人のHDCP差は0ですからスクラッチで対戦することになります。しかし、スクラッチで対戦すればプレーヤーAが有利になることは否めません。公平な対戦とはいえないのです。

スロープシステムは互換性があるのが特徴。各プレーヤーの持つHDCPインデックス(標準難易度のコースにおけるプレーヤーの潜在技量を示した尺度)をコースの難易度に応じて調整できるのです。自分のHDCPインデックスをプレーする場所の難易度を示すスロープレーティングに応じて調整したものを「コースHDCP」といいます。このコースHDCPがその日のプレーヤーのHDCPとなり、より公平にプレーすることが可能となるのです。

【新HDCP活用イメージ】



現行制度でHDCP計算の基準になるコースレーティングはスクラッチゴルファーにとっての難易度を数値化したものでした。スロープシステムではこれに加え、男性の場合はHDCP20前後(女性はHDCP24前後)のプレーヤーにとっての難易度であるボギーレーティングを設定しています。スロープレーティングはコースレーティングとボギーレーティングの差に基づいて算出したものです。

現行制度ではHDCP0.0のプレーヤーとHDCP20.0のプレーヤーではどのコースでプレーしてもHDCP差は20のままです。しかし、技量の高いプレーヤーほど難易度の高さに対応できますが、技量の低いプレーヤーは難易度の高いコースに対応するのが難しいのが現状。つまりコース難易度が高いほどその差は大きくなり、逆に難易度が低くなるほど差は少なくなるのです。

単純に考えれば、コースレーティング69.0ならHDCP0.0のプレーヤーが69でプレーでき、コースレーティング74.0なら74という意味合いになります。この概念をHDCP20.0のプレーヤーにそのままあてはめると、コースレーティング69.0ならば89で、コースレーティング74.0なら94でプレーできるということになります。しかし、実際にはHDCP20のプレーヤーがコースレーティング74.0という難易度の高いコースで94をマークするのは困難であることは否めません。

この問題点を解消し、より公平なプレーを提供するのがスロープシステム。持つだけのHDCPからどこでも使えるHDCPへ——これが新制度で大きく変わる点なのです。

スロープシステムをもっと知ろう

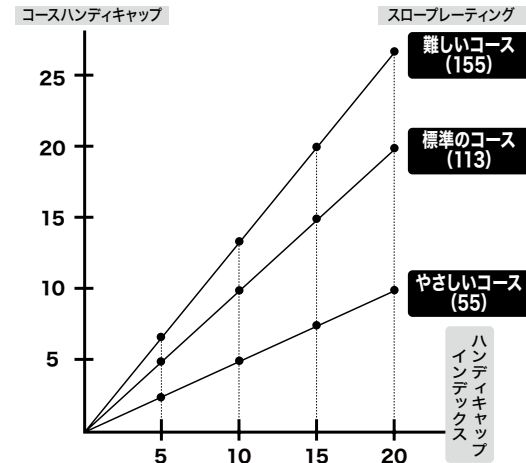
スロープシステムはUSGAが長い年月をかけて開発し、1987年に正式施行したものです。それ以前はUSGAも現行のJGA同様のHDCP制度を採用していましたが、「どこでも公平にプレーできる」ということを目的に新たなシステムを編み出したのです。

スロープシステム最大の特徴はスロープレーティングと呼ばれるゴルファーの技量に応じたコース難易度を示す数値にあります。スロープレーティングとは前述したようにスクラッチゴルファーにとっての難易度の基準であるコースレーティングと、HDCP20前後のプレーヤーの想定スコアを表すボギーレーティングの差に基づいて算出したもの。スロープレーティングは55から155までの整数で表されており、数値が大きいほど難易度が高くなるという解釈です。標準値は113に設定されています。

このスロープレーティングをグラフ化したものが5ページのスロープ表です。スロープレーティング55のコースではグラフの傾斜が最も緩く、難易度が高くなるほど傾斜が急になっていきます。スロープレーティングとは、このグラフで表されるような傾斜(スロープ)から名づけられたものなのです。

このグラフから分かるように、スロープレーティングが低いほどHDCPの少ないプレーヤーと多いプレーヤーのコースHDCPの差は少なくなり、スロープレーティングが高いほど両者のコースHDCPの差は大きくなっていくのです。

【スロープ表】



ハンディを、傾斜で表すスロープシステム。プレーヤーの腕前、コースの難易度によってハンディキャップが大きく変わる。

スロープレーティングは各ティーに設定されますので、同じコースであってもどのティーからプレーするかによってコースHDCPは変動します。コースによっても異なりますが、キャディマスター室などにそれぞれのティーに対応した性別ごとのコース

【コースHDCPの換算表】

コースハンディキャップ換算表			
JGA/USGA		USGA	
ハンディキャップインデックス	コースハンディキャップ	ハンディキャップインデックス	コースハンディキャップ
+3.5 ~ +2.9	+4	16.6 ~ 17.3	21
+2.8 ~ +2.1	+3	17.4 ~ 18.1	22
+2.0 ~ +1.3	+2	18.2 ~ 18.9	23
+1.2 ~ +0.5	+1	19.0 ~ 19.7	24
+0.4 ~ 0.4	0	19.8 ~ 20.5	25
0.5 ~ 1.2	1	20.6 ~ 21.3	26
1.3 ~ 2.0	2	21.4 ~ 22.1	27
2.1 ~ 2.8	3	22.2 ~ 23.0	28
2.9 ~ 3.6	4	23.1 ~ 23.8	29
3.7 ~ 4.4	5	23.9 ~ 24.6	30
4.5 ~ 5.2	6	24.7 ~ 25.4	31
5.3 ~ 6.0	7	25.5 ~ 26.2	32
6.1 ~ 6.8	8	26.3 ~ 27.0	33
6.9 ~ 7.6	9	27.1 ~ 27.8	34
7.7 ~ 8.4	10	27.9 ~ 28.6	35
8.5 ~ 9.2	11	28.7 ~ 29.4	36
9.3 ~ 10.0	12	29.5 ~ 30.2	37
10.1 ~ 10.8	13	30.3 ~ 31.0	38
10.9 ~ 11.7	14	31.1 ~ 31.8	39
11.8 ~ 12.5	15	31.9 ~ 32.6	40
12.6 ~ 13.3	16	32.7 ~ 33.4	41
13.4 ~ 14.1	17	33.5 ~ 34.3	42
14.2 ~ 14.9	18	34.4 ~ 35.1	43
15.0 ~ 15.7	19	35.2 ~ 35.9	44
15.8 ~ 16.5	20	36.0 ~ 36.4	45

【換算表の使用法について】
●プレーヤーのJGA/USGAハンディキャップインデックスに該当するコースハンディキャップでプレーして下さい。
●換算表はプレーするティーと性別毎に設定されていますので、必ず正しい換算表を使用して下さい。
●換算表に記載されていないプラスハンディキャップインデックスは、下記の計算でコースハンディキャップを算出して下さい。
〔ハンディキャップインデックス × スロープレーティング ÷ 113〕

HDCP換算表をご準備いただくようお願いしております。プレーヤーの目につく場所にありますが、プレーヤーはスタート前にこの換算表で自分のコースHDCPを確認することができます。

下に掲載しているのはスロープレーティング100と140のコースHDCP換算表(男性用)です。HDCPインデックス20.0のプレーヤーがスロープレーティング100のティーからプレーする場合、「JGA/USGAハンディキャップインデックス」の「19.8 ~ 20.9」にあてはまりますからコースHDCPは18となり、スロープレーティング140ならば「19.8 ~ 20.5」の欄を見てコースHDCPは25となるのです。

HDCPインデックスが0.0のプレーヤーはスロープレーティングがいくつでもコースHDCPは0となります。つまり、現行制度ではHDCP0.0のプレーヤーとHDCP20.0のプレーヤーが対戦する場合は難易度がどうあれHDCP差は20としか計算できませんでしたが、スロープシステムではスロープレーティング100の場合にはHDCP差が18、同140ならばHDCP差が25というように難易度に応じた適正なHDCPがすぐに分かるわけです。

コースハンディキャップ換算表			
JGA/USGA		USGA	
ハンディキャップインデックス	コースハンディキャップ	ハンディキャップインデックス	コースハンディキャップ
+3.5 ~ +2.9	+3	16.4 ~ 17.5	15
+2.8 ~ +1.7	+2	17.6 ~ 18.6	16
+1.6 ~ +0.6	+1	18.7 ~ 19.7	17
+0.5 ~ 0.5	0	19.8 ~ 20.9	18
0.6 ~ 1.6	1	21.0 ~ 22.0	19
1.7 ~ 2.8	2	22.1 ~ 23.1	20
2.9 ~ 3.9	3	23.2 ~ 24.2	21
4.0 ~ 5.0	4	24.3 ~ 25.4	22
5.1 ~ 6.2	5	25.5 ~ 26.5	23
6.3 ~ 7.3	6	26.6 ~ 27.6	24
7.4 ~ 8.4	7	27.7 ~ 28.8	25
8.5 ~ 9.6	8	28.9 ~ 29.9	26
9.7 ~ 10.7	9	30.0 ~ 31.0	27
10.8 ~ 11.8	10	31.1 ~ 32.2	28
11.9 ~ 12.9	11	32.3 ~ 33.3	29
13.0 ~ 14.1	12	33.4 ~ 34.4	30
14.2 ~ 15.2	13	34.5 ~ 35.5	31
15.3 ~ 16.3	14	35.6 ~ 36.4	32

【換算表の使用法について】
●プレーヤーのJGA/USGAハンディキャップインデックスに該当するコースハンディキャップでプレーして下さい。
●換算表はプレーするティーと性別毎に設定されていますので、必ず正しい換算表を使用して下さい。
●換算表に記載されていないプラスハンディキャップインデックスは、下記の計算でコースハンディキャップを算出して下さい。
〔ハンディキャップインデックス × スロープレーティング ÷ 113〕

スロープシステムを活用すれば ゴルフの楽しみ方が広がる

スロープレーティングを活用すれば、自分がプレーするコース、ティーでの目標スコアが明確に設定できます。この目標スコアをターゲットスコア(注1)といいます。

ターゲットスコアはコースレーティングにコースHDCPを足したものを四捨五入した数字。HDCPインデックスが30.0のプレーヤーがコースレーティング75.2でスロープレーティングが140のコースをプレーする場合にはコースHDCPは37(5ページのコースHDCP換算表参照)になりますから、ターゲットスコアは112(75.2+37=112.2の四捨五入)となるわけです。

HDCPインデックスが30程度のプレーヤーにとっては100を切るということがひとつの目標になるでしょう。しかし、単にスコアだけに焦点を当ててしまうと、易しいコースを99で回った場合と、難しいコースで101だった場合とでは後者の方が「悪いスコア」という判断になってしまいます。これでは、その日のプレーが正しく判断されたとはいえません。

ターゲットスコア112のコースを101で回れば非常にいいプレーをしたということ。数字上では100を切れていなくても、内容的には十分に100を切るプレーをしたと判断できるわけです。

逆に、コースレーティング66.0でスロープレーティング100のコースではコースHDCPが27(5ページのコースHDCP換算表参照)になりますからターゲットスコアは93(66.0+27=93)。このコースを99で回った場合はあまりいいプレーではなかったと判断できるわけです。

このように、スロープシステムを活用すれば、自分のプレーを正確にジャッジできるという利点もあるのです。

また、100切りを目指しているプレーヤーが難易度の高いコースでプレーする場合に100切りは難しくなりますから、ラウンド途中でたたいてしまうと目標を見失い、プレーへの意欲が減退しかねません。こんな時、「自分の実力ならこのスコアを目標にすればいい」というターゲットスコアがあれば意欲を持続してもらえするという効果も見込めるのです。

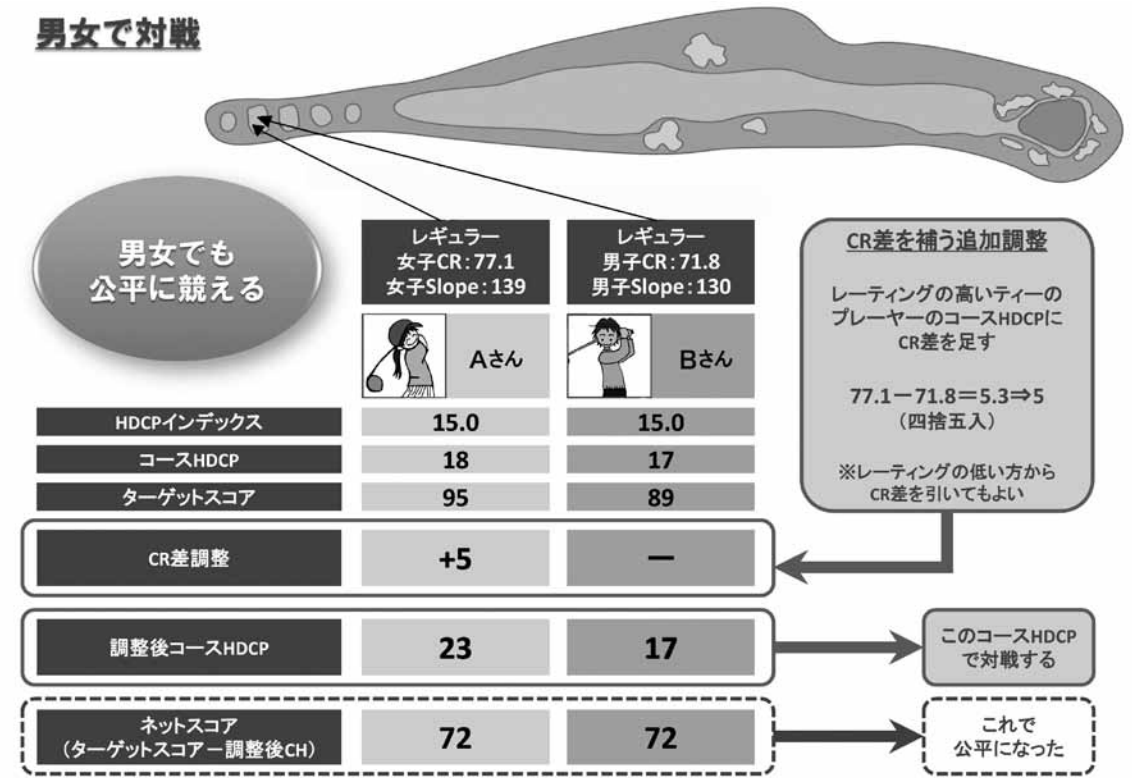
性別の異なるプレーヤー間でも、公平なHDCPのもとにプレーをできるというのもスロープシステムの特色です。



スロープシステムを活用すると大人数の男女混合競技も公平に競うことが可能。

【スロープシステムの使い方】 女性Aさん・男性Bさんが対戦した場合

男女で対戦



具体例を説明しましょう。女性のAさんと男性のBさんは共にHDCPインデックスが15.0とします。この2人が同じティーからプレーした場合、スクラッチで競うのは公平ではありません。なぜなら、女性と男性では飛距離の違いなどがあるため、コースレーティング査定基準が異なるからです。つまり、HDCPインデックスの算出方法も異なり、同じ15.0でも意味合いが違います。

2人がプレーするのは女性のコースレーティングが77.1でスロープレーティングが139、男性のコースレーティングが71.8でスロープレーティングが130と設定されているレギュラーティーと仮定します。この場合、コースHDCPは女性が18、男性が17となります。女性の方がHDCPが多くなりましたが、まだこれでは不十分です。

次に、女性のコースレーティング77.1から男性のコースレーティング71.8を引き、四捨五入します。差は5.3ですから四捨五入して5となります。女性のコースHDCP18にこの5を加えた23がこの対戦の場合の女性のコースHDCPとなるのです。

これで公平になったかどうか検証してみましょう。ターゲットスコアは女性が95(77.1+18=95.1の四捨五入)ですから調整後のコースHDCP23をここから引くと72になります。男性の場合はターゲットスコアが89(71.8+17=88.8の四捨五入)ですから、ここからコースHDCP17を引くと同じく72。公平であることが証明されました。

大人数の男女混合競技で、しかも男女が別々のティーからプレーした場合でもこの方法を活用すればそれぞれのプレーヤーに適正なHDCPを用いることができます。このような競技は従来の制度では公平に競うことが困難でしたが、スロープシステムなら開催可能なのです。

ほかにも、異なるコースで同時に競技を開催して総合順位を決めることができるなど、さまざまな活用法があります。スロープシステムでゴルフの楽しみ方が大きく広がっていくのです。

(注1)ターゲットスコアはプレーヤーがコンスタントに出せるであろうスコアという意味ではなく、あくまで目標値。4~5回に1回程度の割合で達成できるという設定になっている。

提出するスコアカードの規定が変更されます

提出するスコアカードに関しての規定は変更が加えられます。従来は18ホールをプレーした場合のみスコアカードを提出していましたが、新制度では7ホール以上プレーしていれば提出することになります。

プレーしたホール数が7ホール以上、12ホール以下だった場合は9ホールのスコアを、13ホール以上プレーした場合は18ホールのスコアを提出しなければならないと定められています。つまり、1.5ラウンドプレーした場合の最後の9ホールのスコアや、日没や悪天候などで18ホールのプレーが完了できなかった場合でもスコアカードを提出することが出来ます。プレーしていないホールに関しては、そのホールのパーに、そのホールでプレーヤーが受けるハンディキャップストローク(注2)を加えたスコアを記入します。

HDCPインデックス取得に必要なスコアカード枚数も変わります。従来は10枚が必要で、うちディファレンシャルベスト5枚がHDCP算出に採用されてい

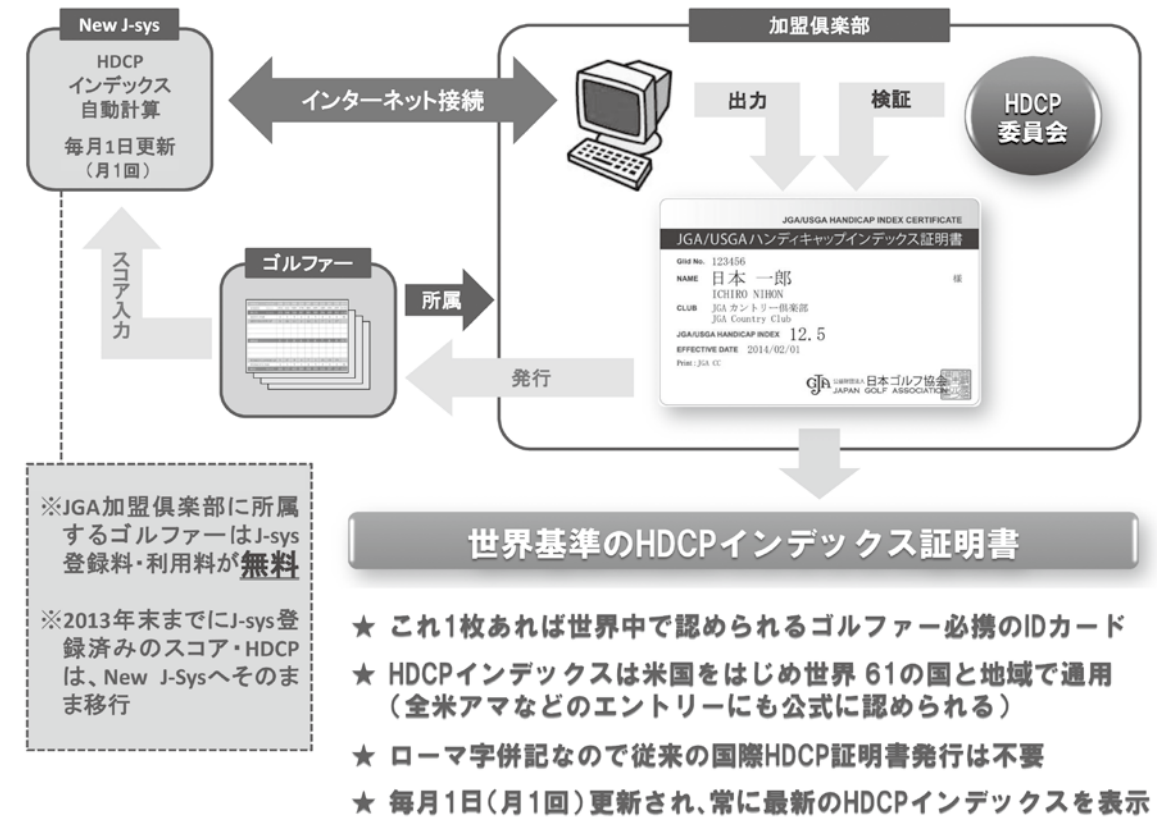
ました。新制度では20枚中ベスト10枚が原則ですが、5枚以上提出すればHDCPインデックスが発行されますので、初めて取得する方も従来よりも少ないラウンド数でもHDCPインデックスが取得できるのです。

また、HDCPインデックス算出にあたり、提出されたスコアカードの有効期限は従来がプレー日より2年でしたが新制度では無制限になるなど、ほかにもいくつかの変更点があります。

発行されるHDCPインデックス証明書はスロープシステムを採用している世界61の国と地域で使用可能です。従来、海外のコースでHDCP証明書が必要な場合は国際HDCP証明書を別途発行してもらう必要がありましたが、それが不要になります。また、全米アマなど国際的な競技のエントリーにも日本で発行されたHDCPインデックス証明書が有効になります。HDCPインデックス証明書は世界中で認められるゴルファー必携のIDカードとなるのです。

(注2)スコアカードに記入されているハンディキャップナンバーの少ないホールからHDCPに応じて1ストロークずつ加える。HDCP10のプレーヤーならスコアカードに記入されているハンディキャップナンバー1～10のホールに各1ストロークずつ、HDCP20のプレーヤーならハンディキャップナンバー1と2のホールに2ストローク、同3～18のホールに1ストロークずつ加えることになる。

【世界基準のHDCPインデックス証明書発行の流れ】



【スロープシステムと現在のJGAハンディキャップの主な相違点】

	スロープシステム	現在のJGAハンディキャップ																																	
提出するスコアカード	7ホール以上プレーしていれば提出	18ホールをプレーした場合のみ提出																																	
HDCP査定に必要なスコアカード枚数	20枚(うちベスト10枚で査定)。ただし、5枚以上提出すれば20枚に満たなくてもHDCPインデックスが発行される	10枚(うちベスト5枚で査定)																																	
HDCP更新と有効期限	毎月1日(月1回)に更新	更新はスコアが提出される都度、証明書有効期限6ヶ月																																	
ストロークコントロール	<table border="0"> <tr> <td>コースHDCP</td> <td>⇒</td> <td>スコア上限</td> </tr> <tr> <td>9以下</td> <td>⇒</td> <td>ダブルボギー</td> </tr> <tr> <td>10～19</td> <td>⇒</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>20～29</td> <td>⇒</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>30～39</td> <td>⇒</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>40以上</td> <td>⇒</td> <td>10</td> </tr> </table>	コースHDCP	⇒	スコア上限	9以下	⇒	ダブルボギー	10～19	⇒	7	20～29	⇒	8	30～39	⇒	9	40以上	⇒	10	<table border="0"> <tr> <td>HDCP</td> <td>⇒</td> <td>スコア上限</td> </tr> <tr> <td>+～0.4</td> <td>⇒</td> <td>1オーバー</td> </tr> <tr> <td>0.5～18.4</td> <td>⇒</td> <td>2オーバー</td> </tr> <tr> <td>18.5～36.4</td> <td>⇒</td> <td>3オーバー</td> </tr> <tr> <td>36.5～50.0</td> <td>⇒</td> <td>4オーバー</td> </tr> </table>	HDCP	⇒	スコア上限	+～0.4	⇒	1オーバー	0.5～18.4	⇒	2オーバー	18.5～36.4	⇒	3オーバー	36.5～50.0	⇒	4オーバー
コースHDCP	⇒	スコア上限																																	
9以下	⇒	ダブルボギー																																	
10～19	⇒	7																																	
20～29	⇒	8																																	
30～39	⇒	9																																	
40以上	⇒	10																																	
HDCP	⇒	スコア上限																																	
+～0.4	⇒	1オーバー																																	
0.5～18.4	⇒	2オーバー																																	
18.5～36.4	⇒	3オーバー																																	
36.5～50.0	⇒	4オーバー																																	
HDCP上限	男子36.4 女子40.4	男女とも50.0																																	
トーナメントスコア	トーナメントでの優れたスコアをHDCP査定に追加採用	特に規定なし																																	
特殊な競技での運用	団体戦、男女混合競技、異なるティーを使用する競技などでのHDCP運用方法を規定	特に規定なし																																	

新制度への移行について

スロープシステムの導入にあたって必要なのがコースレーティングの再査定とボギーレーティングの査定、及びJGA/USGA公認スロープレーティングの発行です。現在、査定に関しては鋭意作業を進めておりますが、2014年1月1日の正式運用開始までには加盟全コースを終えることはできません。査定が完了しないコースに関しては、机上で査定させていただき、2013年末までに「机上スロープレーティング認定書」を発行します。また、「コースHDCP換算表」も全コースに配布されます。「机上スロープレーティング認定書」を発行したコースに関しては、できる限り早期に実査定を行えるよう、各地区連盟と連携して取り組んでいきます。

現在、各倶楽部に導入していただいている「J-sys」については自動的に2014年から運用する「New J-sys」に切り替わります。倶楽部側に作

業的な負担が発生することはありません。

また、現在JGA加盟倶楽部に所属しJ-sysを利用していただいている方については、2013年末までにJ-sysに登録されたスコア・HDCPが、そのまま2014年に自動的に新制度に移行されます。

なお、JGAではノンクラブメンバーへのHDCPインデックス取得(有償)を推進していきます。HDCPインデックス取得の条件であるJGAクラブ会員登録の窓口を増やし、当面は取得者100万人を目標に取り組んでいきます。

また、実際にHDCPインデックスを使用してプレーを楽しめる環境の整備・拡大も急務です。アンダーハンディ競技の普及促進や情報発信・広報活動なども積極的に進めていきます。

スロープシステム導入の最大の目的はゴルフのさらなる普及です。ゴルフの新たな楽しさを創出できるスロープシステムを基軸にさまざまな施策を講じ、ゴルフ人口の拡大、ゴルフ界全体の活性化を不転の決意で目指す所存です。

USGA インタビュー 米国でのスロープシステムの現状

スロープシステムは米国でどのように開発され、どのように活用されているのか。コースレーティング査定セミナー講師として来日したUSGAコースレーティング&ハンディキャップディレクターのメアリー・ケイト・ケンプ氏と、同マネージャーのエリック・ラーマン氏に聞いた。



メアリー・ケイト・ケンプ氏(右)
エリック・ラーマン氏(左)

—スロープシステムはどのような目的で開発されたのでしょうか。

ケンプ ゴルフというゲームをより公平にみなさんに楽しんでもらいたいという目的で10年近い歳月をかけて研究し、1987年に正式運用を始めました。USGAの中にハンディキャップリサーチチームがあり、その中で専門家が論理的なデータに基づき、試行錯誤を繰り返しながらつくりあげていったものです。完成までの段階では実際に現場での声を数多く集め、最もいい形に仕上げたのがスロープシステムなのです。

—開発して実際に運用するまでにはご苦労があったかと思えます。

ケンプ 私は当時、ジョージア州協会で働いていましたので、直接開発に携わったわけではないのですが、すべてのコースのレーティングを査定し直し、コースHDCPの換算表を配布するなど非常に手間のかかるプロジェクトだったと聞いています。このプロジェクトを成功させるにはUSGAと各地区の

協会との連携が重要でした。これはジョージア州協会での経験から実感しております。この部分がうまくいったので、スロープシステムは軌道に乗れたと思っています。

—現在、アメリカ国内での普及度はどのくらいなのでしょう。

ラーマン USGAハンディキャップインデックスの取得者は約500万人です。アメリカのゴルフ人口は約1600万人といわれていますので、ほぼ3分の1のゴルファーが取得しているわけです。

—どのようなプロモーション活動をして広めていったのでしょうか。

ケンプ USGAでは10年ほど前からゴルフクラブのタイプを変更しました。以前は、いわゆるゴルフ場に所属するメンバーの集まりだけがゴルフクラブであるというスタンスをとっていましたが、より多くの方にハンディキャップインデックスを取得していただくようにしようということから枠を広げて3つのタイプに分類したのです。

—具体的にはどのようなタイプ分けをされたのでしょうか。

ケンプ タイプ1は従来のゴルフ場に所属しているメンバーのクラブです。新たに加えたのがタイプ2と3。これらはゴルフ場に所属していないゴルファーの集まりです。タイプ2は社交場の組織を通してメンバーが交流し、なおかつメンバーの多数がクラブ設立以前から交流関係にある場合です。簡単にいえば、会社の仲間同士でつくったクラブといった感じです。タイプ3はインターネットなどを通じて公募し、面識のなかった者同士が集まったようなクラブ。このようなタイプのクラブでもUSGAが承認してハンディキャップインデックスを取得していただけるようなシステムにしたのです。実際、USGA内でもタイプ2のクラブを結成しており、ハンディキャップインデックスを取得していますよ。

—スロープレーティングシステムに対する一般ゴルファーの反応はいかがでしょう。

ラーマン USGAに多くの意見が届いております。「スロープシステムを使用して、非常に公平に対戦できるようになった」という好意的な意見がたくさんあります。アメリカではタイプ2やタイプ3のようなグループが多数あり、毎週さまざまなゴルフ場でコンペを開催するなどしてゴルフを楽しんでいます。ハンディキャップインデックスを持っていれば、これらのイベントにも参加できますから仲間の輪がより広がっていくことが期待できます。実際、私もこのようなオープンなグループのメンバーに加わっています。競技志向のゴルファーだけでなく、エンジョイゴルファーもハンディキャップインデックスがあれば一層楽しめるのです。

—著名人や著名なゴルファーを使ったプロモーションなどは行ったのでしょうか。

ラーマン 2009年と2010年に3人の著名人と公募で選んだ一般ゴルファー1人の計4人が全米オープン開催コースに挑戦するというイベントを開催しました。きっかけは、タイガー・ウッズ選手が「ハンディ10のプレーヤーは全米オープンのセッティングで100は切れない」と発言したことだったのです。一般公募したのはハンディキャップインデックスが10前後の方。数千通の応募がありました。

—100は切れたのでしょうか。

ラーマン 結局、100を切れたのは1人だけでした。タイガーの意見はほぼ正しかったといえるでしょう。

—現在、世界61の国と地域がスロープシステムを採用。今やスロープシステムが世界基準になっています。

ケンプ 2016年にはゴルフがオリンピックの正式競技に復帰しますので、世界でハンディキャップの基準が統一されるのは素晴らしいことだと思います。また、スロープシステムを通じて、USGAとJGAの間で新たなパートナーシップを築けたことも大きな成果です。個々のゴルファーにとってはハンディキャップインデックスがあれば世界中どこに行っても公平にプレーができるというのが最大の利点だと思います。

—このシステムを使えば、世界規模のコンペを開催することも可能ですね。

ラーマン その通りです。世界中どこでプレーしても共通のハンディキャップとして使用できますから、世界中でいくつものゴルフ場を利用して同時にコンペを開催することもできるのです。

—日本がスロープシステムを採用することで、どのような効果が期待できるのでしょうか。

ケンプ 日本とアメリカでは文化が違いますから明確にお答えすることは難しいと思います。ひとつ言えるのは、スロープシステムについてのセミナーを日本で開催して、出席者の方々が非常に熱心に取り組んでいる姿に感銘を受けたということです。システムの移行は簡単ではありませんが、長い視野に立ち、一步一步しっかりとステップを踏んでいけば必ずうまくいくと信じています。

ラーマン このシステムはUSGAで開発されたものですが、日本で使っていただく中でさまざまな意見をフィードバックしてもらい、今後さらにいいものに発展させていくという作業と一緒にできればいいと思っています。

—スロープシステムを通じてゴルファーに新たなゴルフの楽しさが伝わり、ゴルファーの増加につながることを期待しています。

ラーマン 私たちもそう期待しています。さきほどお話したタイプ2、タイプ3のクラブのメンバーにこのシステムを広めることができれば一気に活性化されると思いますので、ゴルフのさらなる普及に対しても非常に効果があると考えています。

—本日は、ありがとうございました。

構成・文 宮井 善一

世界基準のナショナルオープンを目指して ナショナルオープン開催コースに求められるものは？

JGAでは、主催オープンゴルフ選手権を全米オープンや全英オープンに代表されるメジャーと呼ばれる大会を目標に様々な改革を進めています。
ここで、オープンゴルフ選手権開催コースの選定基準を、改めてお知らせします。

発展を続ける ナショナルオープンゴルフ選手権

表1(入場者数の推移)は、有料入場を開始した1972年以降の日本女子オープンと日本オープン、第1回大会からの日本シニアオープンのギャラリー数の推移。その中で、1993年～2002年の10年間で2003年～2012年の10年間の大会期間中の平均入場者数を比較すると、日本女子オープンは15,439人、日本オープンが3,145人、シニアオープンが1,967人増加しています。ナショナルオープンとして、多くのゴルフファンから注目を集める大会に成長を続ける3オープンゴルフ選手権ですが、時代の変遷とともにオープンゴルフ選手権に求められることも変わっています。2009年には、JGA中期ビジョン「GOOD GOLF GOOD LIFE」を掲げ、3オープン競技企画プロジェクトを立ち上げ、現在では、3オープン事業推進本部としてコース政策部会、企画部会、3オープンマーチャダイジング部会として、理想とするオープンゴルフ選手権の形に近づけようと、各事業を推進しています。その理想とは、選手に「フェア」であり良いプレーが行われる舞台であること。同時に観戦に訪れたギャラリーの方々に如何に楽しんでもらえるのか、イベントとしての素晴らしさを追求し、オープンゴルフ選手権を全米オープンや全英オープンを模範とする世界のメジャーに伍する大会にすることです。そのために、3オープン事業推進本部では、開催コース選定基準を設け、コース選定を行っています。



沖縄で初開催となった
2012年(第77回)
日本オープンゴルフ選手権

開催コースは、 どのようなプロセスで決定するのか

JGAは、オープンゴルフ選手権開催までに数年間の準備期間を設けることで十分な環境整備が図られるとの考えにより、余裕をもって開催コースを決定しています。ここで開催コース決定までのプロセスを説明します。

JGAがリストアップしたコースもしくはコースからの立候補により開催候補コースが選ばれます。それら開催候補コースには、3オープン事業推進本部政策部会と企画部会、トーナメントプロデューサーがオープン競技開催コース選定基準をもとに視察を行い、選定基準にどれだけ沿うコースなのかを確認します。そのうえで、コース政策部会と企画部会が出来るだけ「開催コース選定基準」をクリアできるように、コースと折衝を行います。具体的には、コース改造や想定されるプレーの線上に介在し、戦略上競技者が思い描く良いショットに悪影響が出たり、アンフェアな結果になる恐れのある樹木についての伐採や移植、ギャラリーのスムーズな移動や観戦に障害となりうる樹木や垣根の処理などの環境面、チケット販売数や販売形態などのソフト面での折衝を開始します。

諸処条件面での合意が得られれば、JGAと開催候補コースとの間で覚書を締結します。覚書締結後、理事会に上程し、承認を受けて開催コースが決定し、発表の運びとなります。

しかし、発表後であっても、開催コースがこの合意事項を履行しない場合などは、やむなく開催コースを変更することがあります。



多くのゴルフファンから注目を集める大会に成長を続けるオープンゴルフ選手権

入場者数の推移(表1)

日本女子オープンゴルフ選手権

開催年度	開催コース	優勝者	入場者数	パーcentage	バー
1972	浜松シーサイド	佐々木マサ子	661	6,311	73
1973	名四	小林法子	1,491	6,300	72
1974	名神八日市	樋口久子	2,437	6,360	72
1975	鳥山城	二瓶綾子	3,268	6,357	72
1976	浜松シーサイド	樋口久子	3,111	6,351	73
1977	花屋敷	樋口久子	2,539	6,203	74
1978	ローズベイ	清元登子	5,239	6,323	73
1979	広島(八本松)	吉川なよ子	2,564	6,328	74
1980	春日井(西)	樋口久子	6,347	6,168	72
1981	総成(東南)	大迫たつ子	8,283	6,169	72
1982	フォレスト(西)	日蔭温子	9,050	6,288	73
1983	芦原(海)	涂阿玉	7,535	6,356	73
1984	甘楽	大迫たつ子	15,466	6,260	72
1985	袖ヶ浦	森口祐子	12,506	6,315	74
1986	近江	涂阿玉	6,703	6,354	74
1987	筑波	吉川なよ子	9,983	6,299	72
1988	大宰府	谷福美	12,519	6,394	74
1989	武蔵(豊岡)	小林浩美	13,612	6,277	72
1990	岐阜県(西)	森口祐子	10,065	6,280	72
1991	札幌(輪厚)	涂阿玉	11,719	6,429	73
1992	名神八日市	日蔭温子	6,949	6,271	72
1993	東名古屋(西)	岡本綾子	13,512	6,266	72
1994	武蔵(世井)	服部道子	14,370	6,366	72
1995	宇部(万年池)	塩谷育代	18,150	6,448	72
1996	龍ヶ崎	高村亜紀	9,164	6,383	72
1997	東広野	岡本綾子	12,234	6,306	72
1998	三好(西)	野呂奈津子	8,651	6,320	72
1999	霞ヶ関(東)	村井真由美	12,780	6,347	72
2000	飯能	肥後かおり	12,507	6,379	72
2001	室蘭	島袋美幸	10,044	6,396	72
2002	箱根	高又順	9,808	6,418	73
2003	千葉(野田)	服部道子	21,959	6,475	72
2004	広島(八本松)	不動裕理	12,703	6,448	72
2005	戸塚(西)	宮里藍	48,677	6,453	72
2006	茨木(西)	Jeong Jang	43,433	6,546	72
2007	樽前(南・中)	諸見里しのぶ	13,291	6,522	72
2008	紫雲(加治川)	李知姫	22,949	6,484	72
2009	我孫子	宋ホベ	34,643	6,559	72
2010	大利根(東)	宮里美香	26,644	6,570	72
2011	名古屋	馬場ゆかり	19,364	6,383	70
2012	横浜(西)	ファンファン	31,949	6,545	72

※有料入場開始以降
1993年～2002年の平均入場者数= 12,122人
2003年～2012年の平均入場者数= 27,561人 (+15,439人)

日本オープンゴルフ選手権

開催年度	開催コース	優勝者	入場者数	パーcentage	バー
1972	大利根(東)	韓長相	6,904	7,024	72
1973	茨木(西)	ベン・アルダ	13,088	7,075	72
1974	セントラル(東)	尾崎将司	7,191	7,136	73
1975	春日井(東)	村上隆	11,484	6,870	72
1976	セントラル(東)	島田幸作	6,662	7,262	73
1977	習志野(セレクト)	セバ・ハステロス	12,254	7,119	71
1978	横浜(西)	セバ・ハステロス	20,250	6,928	72
1979	日野(キング)	郭吉雄	12,018	7,040	72
1980	相模原(東)	菊地勝司	27,318	7,260	74
1981	日本ライン(東)	羽川豊	9,986	6,800	70
1982	武蔵(豊岡)	矢部昭	16,210	6,678	71
1983	六甲国際	青木功	18,634	7,075	72
1984	嵐山	上原宏一	14,214	7,005	72
1985	東名古屋(西)	中島常幸	13,010	6,988	72
1986	戸塚(西)	中島常幸	22,221	7,066	72
1987	有馬ロイヤル	青木功	14,767	7,034	72
1988	東京	尾崎将司	11,474	6,923	71
1989	名古屋	尾崎将司	17,166	6,473	70
1990	小樽(新)	中島常幸	14,662	7,119	72
1991	下関	中島常幸	14,283	6,910	72
1992	龍ヶ崎	尾崎将司	15,552	7,012	72
1993	琵琶湖(東・三上)	奥田靖己	18,383	6,879	71
1994	四日市	尾崎将司	20,769	7,275	72
1995	霞ヶ関(東)	伊沢利光	26,863	6,995	71
1996	茨木(西)	ビーター・バイン	38,062	7,017	71
1997	古賀	クエイ・バルー	30,460	6,762	71
1998	大洗	田中秀道	20,396	7,160	72
1999	小樽(新)	尾崎直道	12,484	7,200	72
2000	鷹之台	尾崎直道	27,937	7,034	71
2001	東京	手嶋多一	16,574	6,908	71
2002	下関	テビッド・スミル	10,746	6,867	70
2003	日光	深堀圭一郎	16,164	7,027	71
2004	片山津(白山)	谷口徹	13,650	7,104	72
2005	廣野	片山晋吾	15,890	7,144	71
2006	霞ヶ関(西)	ホルン・ハン	20,916	7,068	71
2007	相模原(東)	谷口徹	33,027	7,259	72
2008	古賀	片山晋吾	28,890	6,797	71
2009	武蔵(豊岡)	小田龍一	45,515	7,083	72
2010	愛知	金庚泰	28,154	7,084	71
2011	鷹之台	妻相文	35,282	7,061	71
2012	那覇	久保谷健一	16,629	7,176	71

※有料入場開始以降
1993年～2002年までの平均入場者数= 22,267人
2003年～2012年までの平均入場者数= 25,412人 (+3,145人)



ギャラリーの入場風景

日本シニアオープンゴルフ選手権

開催年度	開催コース	優勝者	入場者数	パーcentage	バー
1991	鳩山	金井清一	980	6,669	72
1992	浜松シーサイド	金井清一	2,388	6,681	72
1993	日高(東・西)	金井清一	2,090	6,716	72
1994	奈良国際	青木功	8,300	6,808	72
1995	北浦	青木功	3,386	6,753	72
1996	富士(池田北)	青木功	4,574	6,853	72
1997	森永高滝	青木功	1,393	6,787	72
1998	宇部(万年池)	グラハム・マッシュ	5,112	6,764	72
1999	六甲国際	グラハム・マッシュ	7,614	6,811	72
2000	春日井(東)	高橋勝成	2,352	6,765	72
2001	大宰府	小林富士夫	3,873	6,854	72
2002	我孫子	福沢孝秋	13,124	6,774	72
2003	宝塚(新)	高橋勝成	6,493	6,630	71
2004	茨城(東)	高橋勝成	4,942	6,865	72
2005	嵐山	中嶋常幸	10,008	6,757	72
2006	桑名	中嶋常幸	7,139	6,952	72
2007	くまもと中央	青木功	9,555	6,965	72
2008	狭山(東・西)	中嶋常幸	10,657	6,985	72
2009	琵琶湖(東・三上)	渡辺	7,437	6,946	72
2010	鳴尾	倉本昌弘	5,150	6,602	70
2011	広島(八本松)	室田淳	4,813	6,873	72
2012	東名古屋(西)	アランキ・ミンガ	5,297	7,010	72

※有料入場開始以降
1993年～2002年の平均入場者数= 5,182人
2003年～2012年の平均入場者数= 7,149人 (+1,967人)

開催コースに求められる条件とは

全頁の流れでナショナルオープン開催コースが決定されますが、「開催コース選定基準」とは何か?を説明いたします。

■開催時期

JGAは2001年からオープンマンスとして、スポーツに最も適した9月末から10月末までの期間にオープンゴルフ選手権を開催しています。このため、この時期にコース周辺での地域イベントや観光シーズンと重ならないことを開催時期の条件としています。

■コース

オープンゴルフ選手権は、いずれも日本一のプレーヤーを決する我が国唯一のナショナルオープンです。そのため、ナショナルオープンに相応しいコースレイアウトであることが求められます。さらに、用具の進化や競技者の技量向上により、プレーヤーの飛距離は飛躍的に伸びています。それに対応するために、日本オープンでは6,800～7,000ヤード超、日本女子オープンでは6,300～6,600ヤード、日本シニアオープンでは6,600～7,000ヤードのコース全長を条件としています。

■ギャラリー収容力

表1にある通り、オープンゴルフ選手権は大変な注目を集め、数多くのギャラリーが観戦に訪れます。そのため、日本オープンと日本女子オープンでは最終ラウ

ンドに20,000人、日本シニアオープンでは6,000～8,000人の収容力を求めています。特に日本オープンと日本女子オープンでは、そのコース(クラブハウスを含む)の規模を25万坪(825,000㎡)以上であることを条件としています。

■ギャラリー駐車場

最寄り駅からのバスが無い場合、日本オープンと日本女子オープンでは、コース近隣に10,000台、JRまたは私鉄主要ターミナルから30分以内でギャラリーバスの運行が可能な場合は、6,000台のギャラリー駐車場のスペース確保が条件となります。なお、シニアオープンについてはそれぞれ4,000台と3,000台の駐車場スペースを条件とします。

■18番グリーン周辺の収容及び構造

優勝者が決する瞬間を間近に観戦できる18番ホール。グリーン周りには数多くのギャラリーがウィニングパットを決める姿をその目に焼き付けようと注目します。JGAでは、その興奮をできるだけ多くの方に味わっていただくために、ホスピタリティーテントの他、日本オープンと日本女子オープンは1,500～2,000席、シニアオープンでは500～1,000席のギャラリースタンドを設置しますので、そのためのスペース確保を条件としています。

■1番ホールティーインググラウンド周辺

1番ホールでは、ギャラリーの熱い視線の中で、選手がティーオフしています。緊張感溢れるスタートの様子は、人気が高い観戦ポイントのひとつです。そのため、1番ホール周辺のギャラリー観戦スペースの確保や場合によっては垣根などの撤去を条件としています。

■ギャラリープラザについて

全米オープンや全英オープンでは、イベントとしてギャラリーの方々に楽しんでいただけるような仕掛けが数多くなされています。その中心となるのが、ギャラリープラザです。JGAでは、約2,500㎡(800坪)のスペース確保を条件とし、ギャラリーの方々に競技を含めて1日の楽しい思い出をお持ち帰りいただけるよう、ギャラリープラザにマーチャндаイジングショップなどを展開しています。

この他、3オープン競技推進本部では表2のような開催コース選定基準を設け、魅力あるオープンゴルフ選手権の開催に向けた諸準備を進めています。

18番グリーン脇にあるギャラリースタンドからは多くの声援が選手へ送られる



ナショナルオープン
開催コース選定基準(表2)

項目	日本オープン	日本女子オープン	日本シニアオープン
開催時期	10月中旬	9月末～10月上旬	10月下旬
コース	ナショナルオープンの開催コースとして相応しいコースレイアウトであること。		
ギャラリー収容力	最終日20,000人を収容できること	最終日6,000～8,000人を収容できること	最終日6,000～8,000人を収容できること
ギャラリー収容力	18Hクラブハウスを含めて25万坪(825,000㎡)以上	特に設けない	特に設けない
ギャラリー駐車場(駅バスの無い場合)	コース近隣に10,000台(5万坪/1台5坪)最大3ヶ所以内	コース近隣に4,000台(2万坪/1台5坪)最大3ヶ所以内	コース近隣に4,000台(2万坪/1台5坪)最大3ヶ所以内
ギャラリー駐車場(駅バスがある場合)	コース近隣に6,000台(1台5坪)最大3ヶ所以内	コース近隣に3,000台(1台5坪)最大3ヶ所以内	コース近隣に3,000台(1台5坪)最大3ヶ所以内
18番グリーン周辺の収容および構造	グリーン周辺に観戦スペースがとれること。スタンド(1,500～2,000席)の他、ホスピタリティーテント等スペースがとれる。	グリーン周辺に観戦スペースがとれること。スタンド(500～1,000席)の他、ホスピタリティーテント等スペースがとれる。	グリーン周辺に観戦スペースがとれること。スタンド(500～1,000席)の他、ホスピタリティーテント等スペースがとれる。
1番ホールティイング周辺	ギャラリー観戦スペースがとれる。場合によっては、垣根等の撤去を依頼する。		
ドライビングレンジ	距離は250～300ヤード	距離は240～280ヤード	距離は250～280ヤード
その他練習場	バッティング、アプローチ、バンカー各練習スペースがあること。		
ギャラリープラザ(飲食スペース)	約2,500㎡・800坪のスペースがとれる。(下地の整備はコース負担) 搬入・搬出ルートが確保できる。	約1,000㎡・300坪のスペースがとれる。(下地の整備はコース負担) 搬入・搬出ルートが確保できる。	約1,000㎡・300坪のスペースがとれる。(下地の整備はコース負担) 搬入・搬出ルートが確保できる。
NHK中継センター用スペース	インコースに近いエリアで約1,200㎡(400坪)のスペースが確保できる。中継車(10m×3m×2.7m、総重量15～20t)がコース外周からの進入ルートが確保できる。(道路の拡幅、舗装、樹木の剪定はコース負担)	インコースに近いエリアで約1,000㎡(300坪)のスペースが確保できる。中継車(10m×3m×2.7m、総重量15～20t)がコース外周からの進入ルートが確保できる。(道路の拡幅、舗装、樹木の剪定はコース負担)	インコースに近いエリアで約1,000㎡(300坪)のスペースが確保できる。中継車(10m×3m×2.7m、総重量15～20t)がコース外周からの進入ルートが確保できる。(道路の拡幅、舗装、樹木の剪定はコース負担)
コース管理課人員/機材	管理25人程度(応援含む) Gモア5-6台(朝ダブル刈の場合は2倍)。600㎡程度のGで1台辺り3-4面が限度 FWモア3台(5連・作業幅2.5m～3m規模) 転圧機3台 etc		
キャディーの確保	約30名(帯同見込み90～100名として)	約40名(帯同見込み80～90名として)	約70名(帯同見込み40～50名として)
ボランティアの確保	1日200名～250名程度		
クラブハウス	食堂スペース:120席以上(350㎡) ロッカー:プロアマ(火曜)があるため、最大約300本以上		
ハウス隣接駐車場(選手・関係者・報道・スタッフ等)	600～650台 その他にボランティア用として200台		
その他	ホール間の樹木下枝の処理 排水性(グリーン・バンカー等)		



オープン選手権ブランドをアピールした2012年日本オープンゴルフ選手権のギャラリープラザ内マーチャндаイジングショップ